

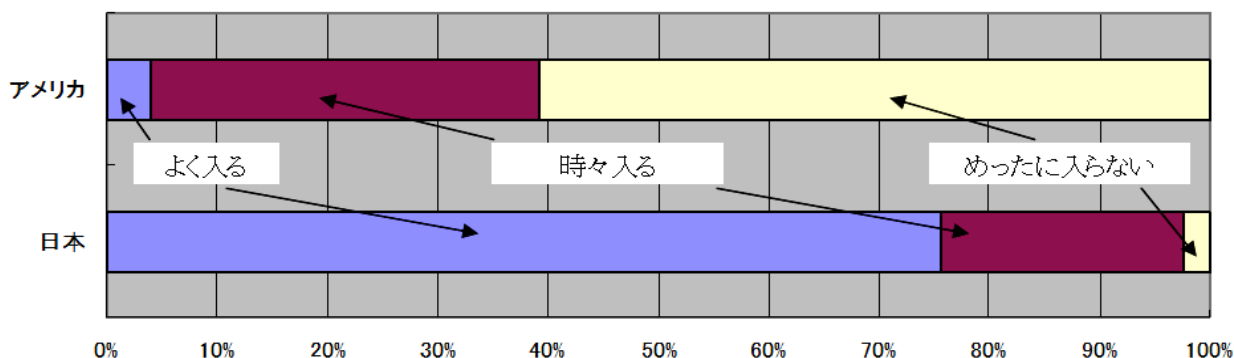


子供部屋に閉じ込める？追い出す？

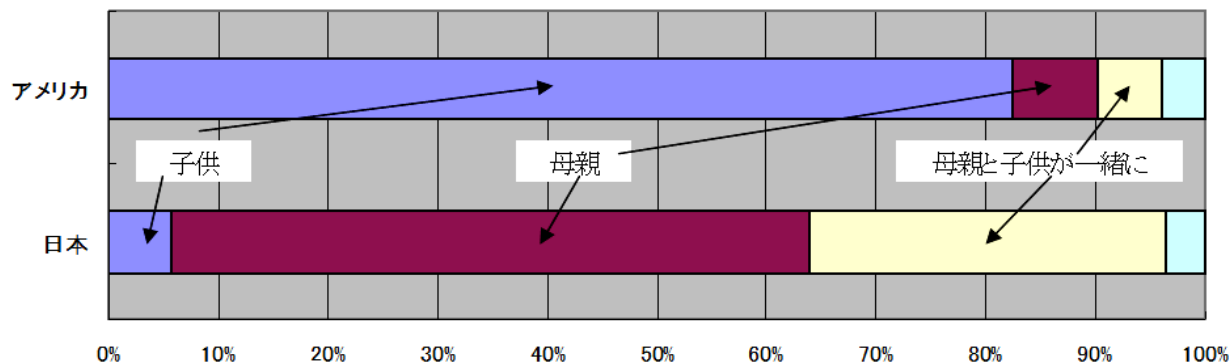
子を叱るとき、「もう勝手にさせない!」と、子供部屋に閉じ込めるアメリカ人
「もう勝手にしなさい!」と、家から追い出す日本人

会話型コミュニケーション(欧米) vs 世話焼き型コミュニケーション(日本)

子供部屋への母親の入室頻度…10歳の子の比較



子供部屋は誰が管理しているか(掃除・整理整頓・家具の配置など)…10歳の子の比較



今月の特集は、帝塚山大学教授の北浦かほる先生（居住空間デザイン学）のインタビューです。先生は、世界の子供部屋事情について長年にわたって調査を続けておられます。今回は子供部屋を通して見る「親子のコミュニケーション」についてお話を聞きました。

編集部：親子のコミュニケーションを考える前に、

「もはや伝統的な家族は崩壊した」という極端な考え方もあるようですが…。



北浦：いいえ、日本の家族が直面しているのは家族の「崩壊」ではなく、「変化」であるということです。

家族についての変化は例をあげればキリがありません。まず、食事が変わりました。家族がそろって食事をするという機会が激減し、「個食」の時代といわれています。

家族がそれぞれ個室を持ち、異なる生活時間を持つようになり、家族の結びつきは極限まで薄れてきたように思えます。

親子の関係については「鍵のかかる子供部屋が親子のコミュニケーションをだめにした。だから子供部屋はなくすべきだ」という考え方もありますね。

結論から言えば、「子供部屋をなくして、オープンな間取りにすれば会話が増える」という建築家の口車（笑）に乗せられるのではなく、積極的に家族の絆（きづな）を強くしていく努力だということです。
間取りが原因だとしたら、欧米の住まいはすべて親子の断絶を生んでいることになるでしょう。そんなことはありませんね。

日本の場合、子供部屋を与えるというか、持てるというのは最近になってからのことで、欧米とは文化が異なるのではないのでしょうか。

昔は、「親の背中を見て育つ」とか言われていましたが、そういう日本的な以心伝心というか、超能力（笑）に期待せず、「口に出す」（会話をする）ということが大切なんです。
日本の親子コミュニケーションの落とし穴って、この辺にあるんですよ。実に簡単でしょ。

たしかに、「口に出さなくても、うちの子はわかっていてくれる」って期待というか甘えがありますね。

はい。それと、日本と世界の子供部屋を比較して、日本の子供部屋はその誕生とその変遷から、勉強をさせるための空間であり、親は子を勉強に集中させるためにあらゆる世話を焼くんです。いっぽう、欧米では「子供部屋」という呼び方はなく、単に、「ベッドルーム（寝室）」と呼び、その空間の目的は子供の社会的な自立を促す場であると考えています。

そのお話には興味を惹かれます。子供に個室を与える目的が全然ちがうんですね。

そう。日本の母親の多くの意識が **すべてに子供優先** なのに対して、米国では **自分が優先** という、大きな違いがあります。
欧米では子ども部屋は屋根裏部屋。家の中でいちばんよくない空間です。いちばんいい空間はマスターベッドルーム＝夫婦の寝室。あくまでも夫婦が中心です。米国では、親は子育てに埋没することなく、親自身もひとりの人間として成長を続け、人生を楽しもうという思いがあるんですね。
幼児のしつけ方でも、日本ではボタンをはめるとか、スプーンを上手に使うといった身辺自立が中心ですが、米国はマナーとリーダーシップと意思表示をしつけます。
何か飲みたいときに、「ミルクですかお茶ですか」と聞き、返事するまで与えない。
日本だったら、何も聞かずに適当に選んで与えてしまいます。
この違いは親の権威という点にも現れてきます。米国では本来、他人に対してしっかり「自分の意見を言える」という態度を重要視しますが、親に対しては「理由のいかんにかかわらず、親の言う通りにする」というのが普通です。
これは幼児であれ高校生であれ、同じです。日本では「文句を言いながら従う」というのは良いほうで、「無視する」というのが普通になっています（笑）。



子供のしつけという気が減ってしまうんですが、子供のためにも必要なことですね。ずいぶんと日本と欧米の子育てって異なるんですね。



つぎに、興味深いのは子供の叱りかたです。米国では子供を叱る時は子供部屋に閉じ込めて、自由を束縛することで反省をうながすのに対して、日本では「悪いことをする子は家から出て行きなさい」と言って、米国とは逆に子供部屋から追い出そうとします。
この2つの子供部屋の使い方の違い（閉じ込める、追い出す）は、まさに個人主義と集団主義の違いを象徴しているように思えます。

うわぁ、耳が痛いです。収納の方法とか整理の方法など、むしろ親として教えて欲しいぐらいです。

さて、ここからが本論というか、大切なところですが、親が子供部屋に入る目的が日米ではずいぶん異なります。
米国では、親が子供部屋に入るときというのは「会話」が目的の時に限られます。「よう、話をしようぜ。すこしは大人になったかい」って。
欧米ではこのように、親子の会話を中心とした「会話型コミュニケーション」であるため、親は子供が早く一人前になって、対等なコミュニケーションが成立することを楽しみに子育てをすすめます。それは親からの一方通行ではなく、子供の方にも親との関係を大切にすることが自然と生まれ、双方の積極的な意志と努力に支えられています。
これに対して、日本では「子供の世話をする」という行為が子育てそのものであり、いかにこまめに世話をしてあげるかが愛情である、という認識があるんですね。子供の身の回りの世話をすることが愛情の表現であり、コミュニケーションであると捉える傾向があり、子供の身の回りの世話を「世話焼き型コミュニケーション」といえます。ですから、子供が成長して自分で身の回りのことができるようになると、世話焼きの機会がどんどん減少していきます。そして会話もなくなりがちになります。日本は、これまでお互いを気配で感じていたような社会ですから、面と向かって親子で話をする習慣がなかったんです。だから、用事があるフリをして、お茶とお菓子を持って入室します。だから子供からすると、プライバシーを侵されている感じがするわけです。

なるほど、正面を向き合って、親子や夫婦で話をするっていう機会は、意外にないものですね。しっかり意識して、そういう時間をつくるべきなんですね。

日本的な以心伝心の世界では、もう何も伝わらない。
言葉にしないといけないし、行動に表さないといけないんです。
同じ場所にいることが家族だと思ってる人が多いでしょう。場の共有だけでは解決されないと思います。
大切なのは会話やコミュニケーションであって、間取りじゃないんですね。



8月	1 月	2 火	3 水	4 木	5 金	6 土	7 日	8 月	9 火	10 水	11 木	12 金	13 土	14 日	15 月	16 火	17 水	18 木	19 金	20 土	21 日	22 月	23 火	24 水	25 木	26 金	27 土	28 日	29 月	30 火	31 水
2011年	友引	先負	仏滅	大安 上棟吉日	赤口 地鎮上棟吉日	完成見学会 宕曇野市三郷		先負 地鎮上棟吉日	仏滅	大安	赤口 地鎮祭吉日	すまい いんぐ 発行日	お盆休み					先勝	友引 地鎮上棟吉日	先負	仏滅	大安	赤口	先勝 三隣亡	友引 地鎮上棟吉日	先負	仏滅	大安 上棟吉日	友引 地鎮上棟吉日	先負	仏滅

～見学会報告～

7月は2棟の完成見学会を開催させていただきました。
ご来場いただきましたお客様、本当にありがとうございました。

◇二人で住まう程好い家◇

7月9日（土）・10日（日）の2日間は、松本市笹部におきまして『F様邸完成見学会』を開催致しました。
とても暑い日でしたが、35組、110名様のご来場をいただきました。
F様邸はご夫婦お二人が心地よく暮らせる、少し和風の落ち着いた佇まいです。
玄関にはお施主さまのお父様が乗っておられた、戦闘機のプロペラが飾られており、ご来場のお客さまも大変興味深く見学されていました。



◇子育て世代のECO民家◇

7月16日（土）～18日（祝）の3連休は、安曇野市三郷におきまして『K様邸完成見学会』を開催致しました。
3日間で延べ37組、120名様のご来場をいただきました。
こちらは、二人のお子さまがいらっしゃる、4人家族の家。
みんなで一緒に塗った珪藻土の壁や家族の手型と、仲の良さが伺える、楽しい家になりました。
子ども部屋にはブランコ付き。お子さまたちに大人気でした♪



～木族の家、ぞくぞく完成！！～

今後の見学会予定

8月6日（土）・7日（日）・・・安曇野市三郷
9月23日（金・祝）～25日（日）・・・松本市里山辺
※10月も3棟開催予定です。



詳細はHPにて配信中

木族の家

検索

